

2023 年キリスト教一致祈禱週間

1月18日－25日



Do good; seek justice

(Isaiah 1:17)

善を行い 正義を追い求めなさい

(イザヤ1・17 参照)

日本キリスト教協議会
カトリック中央協議会

この小冊子は、世界教会協議会（WCC）と、教皇庁キリスト教一致推進省が共同発行した資料をもとに作られました。年間を通じて、合同の集会などご利用ください。

聖書本文の引用は、『聖書 新共同訳』（日本聖書協会、2000年）を使用しています。

目 次

キリスト教一致祈祷週間を準備する皆さんへ……………	2
2023 年の聖書テキスト ……………	4
2023 年のテーマの解説 ……………	5
2023 年キリスト教一致祈祷週間の資料の準備 ……………	12
エキュメニカル礼拝……………	16
はじめに……………	16
礼拝式文……………	18
付録……………	28
八日間の聖書の黙想と祈り……………	34
ミネソタ教会協議会……………	50
キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧（1968 - 2023 年）……………	55
キリスト教一致祈祷週間に関する歴史上の重要な年……………	58

キリスト教一致祈禱週間を準備する皆さんへ

一致を求めて——年間を通じて

キリスト教一致祈禱週間は、北半球では、伝統的に1月18日から25日に行われます。この日程は、1908年にポール・ワトソンによって提案されたもので、当時祝われていた聖ペトロの祝日と聖パウロの祝日の間の期間であり、日付そのものに象徴的な意味があります。しかし、南半球では、1月は休暇の季節なので、他の日程、たとえばペンテコステ（聖霊降臨の主日）前後に変更する地方もあります（1926年に信仰職制運動により提案された日程）。この日付も、教会の一致のために象徴的で意義深いものです。

日程については柔軟に対応できることにご留意ください。諸教派間ですでに実現している交わりの状況を伝え、キリストのみ心である完全な一致を求めてともに祈るために、この資料が年間を通じて用いられるよう願っています。

各地の状況に合わせてテキストを用いる

この資料は、可能な場合はいつでも、各地域の状況に合わせて適用できるように作成されています。その場合、各地の典礼や礼拝の様式、社会的・文化的背景全体が考慮されなければなりません。そのような適用は、理想としては、エキュメニカルなかたちで行われるべきです。いくつかの地域ではすでに、この資料を適用するためのエキュメニカルな体制が整っていますが、そうでない地域では、適用の必要性がきっかけとなって、そうした体制が築かれるよう願っています。

キリスト教一致祈禱週間資料の使い方

- * 教会やキリスト教共同体の団体が、協力して一回の合同礼拝を行う場合には、「エキュメニカル礼拝式文」をそのまま使うことができます。
- * 教会やキリスト教共同体の団体は、固有の礼拝にこの資料を組み入れて用いることができます。たとえば、「エキュメニカル礼拝式文」や「八日間

の聖書の黙想と祈り」、その他の祈りを、それぞれの状況に応じて用いることができます。

- * 一週間を通して一致祈祷週間の礼拝を毎日ささげる共同体は、その礼拝の資料として「八日間の聖書の黙想と祈り」を使うことができます。
- * キリスト教一致祈祷週間のテーマに関する聖書研究を行いたい場合には、「八日間の聖書の黙想と祈り」に提示されている聖句や説明を基礎資料として使うことができます。また、日々のディスカッションは、共同祈願で締めくくることができます。
- * 一人で祈りたい人も、自分の祈りの意向に集中するためにこの資料を役立てることができます。そうすれば、自分たちが、キリストの教会を目に見えるかたちでさらに一致させるために祈っている世界中の人々との交わりの中にあることを、忘れずにいられるでしょう。

2023年の聖書テキスト

イザヤ 1・12 - 18

こうしてわたしの顔を仰ぎ見に来るが
だれがお前たちにこれらのものを求めたか
わたしの庭を踏み荒らす者よ。
むなしい献げ物を再び持って来るな。
香の煙はわたしの忌み嫌うもの。
新月祭、安息日、祝祭など
災いを伴う集いにわたしは耐ええない。
お前たちの新月祭や、定められた日の祭りを
わたしは憎んでやまない。
それはわたしにとって、重荷でしかない。
それを担うのに疲れ果てた。
お前たちが手を広げて祈っても、わたしは目を覆う。
どれほど祈りを繰り返しても、決して聞かない。
お前たちの血にまみれた手を
洗って、清くせよ。
悪い行いをわたしの目の前から取り除け。
悪を行うことをやめ
善を行うことを学び
裁きをどこまでも実行して
搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り
やもめの訴えを弁護せよ。

論じ合おうではないか、と主は言われる。
たとえ、お前たちの罪が緋のようでも
雪のように白くなることができる。
たとえ、紅のようであっても
羊の毛のようになることができる。

2023年のテーマの解説

「善を行い、正義を追い求めなさい」

(イザヤ1・17 参照)

イザヤは紀元前8世紀のユダに住む、アモス、ミカ、ホセアと同時代の預言者でした。当時の「超大国」であったエジプトとアッシリアが弱体化したことによって、イスラエルとユダがともに経済的に大繁栄し、政治的にも安定していた時代が終わりを迎えようとしていました。しかし、いずれの王国でも不正義、不公正、不平等が横行している時代でもありました。

この時代にはまた、ユダヤ教では、神殿における献げ物や犠牲の儀式と祭儀が非常によく整えられました。この宗教儀礼は祭司によって司式され、これらの祭司もまた富裕層や権力者の恩恵に浴していました。王宮と神殿が物理的に近接し、相互に連結し、権力と影響力はほとんど王と祭司に集中していました。彼らのうちには、この歴史の中で抑圧と不公正に耐えている民衆のために立ち上がる者はいませんでした。当時の世界観によれば（そしてそれは歴史上繰り返し立ち現れる世界観ですが）、富んでいる人、多くの献げ物をする人がよい人で、神から祝福されていると理解され、一方、貧しく献げ物ができない人は悪であり、神から呪われていると理解されていました。貧しい人は、経済的事情から神殿礼拝に参加することができないため、誹謗中傷されることもよくありました。

イザヤはこのような状況の中で、ユダの民の意識を現実を目覚めさせようと語りかけました。イザヤは、当時の人々の信仰心を称賛するのではなく、むしろそれは膿んだ傷であり、全能の神への冒瀆であると考えたのです。不正義と不平等が人々を分裂させ、不和をもたらしたのです。彼の預言は、政治的、社会的、宗教的構造を糾弾し、貧しい人を抑圧する一方で献げ物をささげることは偽善であると批判したのです。腐敗した指導者に激しく抗議し、正義と公正を神にのみ求め、恵まれない人々の側に立ち続けたのです。

ミネソタ教会協議会が任命した準備委員会は、キリスト教一致祈祷週間の中

心となるテキストをイザヤ書1章から選びました。「善を行うことを学び、裁きをどこまでも実行して、搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り、やもめの訴えを弁護せよ」(1・17)。

イザヤは、神がわたしたち全員に、つねに、そして人生のあらゆる領域で、正義と公正を要求しているのだと教えました。今日の世界は、イザヤがその説教の中で直面した分裂という課題を多くの点で映し出しています。公正、正義、一致は、わたしたち一人ひとりに対する神の深い愛から生まれたものであり、神がどなたであるか、そして神はわたしたち人間が互いにどのような人間となることを期待しておられるのか、ということの核心なのです。「あらゆる国民、種族、民族、ことばの違う民」(黙示録7・9)から新しい人類を創造するという神の決意は、神が被造物につねに望んでおられた平和と一致へとわたしたちを招いているのです。

当時の信仰心に対する預言者のことばは辛辣です。「むなしい献げ物を再びもって来るな。香の煙はわたしの忌み嫌うもの。……お前たちが手を広げて祈っても、わたしは目を覆う」(13、15節)。このような激しい非難を口にし、何が間違っているのかを診断した後、イザヤはこのような不公正に対する解決策を示し、神の民に次のように命じます。「洗って、清くせよ。悪い行いをわたしの目の前から取り除け。悪を行うことをやめよ」(16節)。

今日、ある特定のグループや階層が他よりも優遇されるときに、分断と抑圧が生じています。人種差別の罪は、ある「人種」¹を他の人種から区別したり、優遇したりする信念や慣習に現れています。人種的偏見が権力の不均衡を伴い、あるいはそれによって助長されるとき、その偏見は個人の関係性を超えて、社会構造へと移り、人種差別の制度的固定化を生みます。差別が存在することにより、教会を含む一部の人々に不当な利益をもたらし、単なる肌の色や「人種」の認識に基づく文化的連想によって、他の人々に負担をかけ、排除してきたのです。

¹ 人類という一つの人種しか存在しないにもかかわらず、人種的神話が人種差別という現実を引き起こしていることを認めなければならない。人種は生物学的なものではなく、身体的特徴によって人類を分ける社会的構成物である。世界にはこの用語が使用されない地域が多々あるかもしれないが、その一方で、人間集団を効果的に分断し、抑圧する道具として用いられてきたことを認めるのは重要である。

聖書に登場する預言者たちから激しく非難された祭司たちのように、キリスト者の中にも偏見と抑圧を支持し、永続させ、分裂の助長に加担し、現在もそうし続けている人がいます。歴史が示すように、キリスト者は、神の似姿に造られた一人ひとりの人間の尊厳を認めるところか、奴隷制度、植民地化、隔離、アパルトヘイトなど、人種という偽りの理由で他者の尊厳を奪う罪の構造に、あまりにも頻繁に加担してきたのです。それと同時に教会の中でもキリスト者は、洗礼を受けたすべての人の尊厳を認めず、人種の違いを理由に、キリストにおける兄弟姉妹の尊厳を軽んじてきたのです。

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師は、印象深いことばを残しています。「日曜日の朝 11 時が、キリスト教国アメリカでもっとも分断された時間とはいわないまでも、甚しく分断された時間の一つであることこそ、わが国の悲劇の一つ、恥ずべき悲劇の一つです」。この発言は、キリスト者の分断と人類全体の分断が互いに影響し合っていることを示しています。すべての分裂は罪に、つまり、神が被造物全体のために望んでおられる一致に反する態度や行為に根ざしているのです。悲劇的なことですが、人種差別は、キリスト者を相互に分裂させ、キリスト者が別々の時間に、別々の建物で礼拝するようにし、キリスト教共同体を分裂させる原因ともなった罪の一部なのです。

残念ながら、マーティン・ルーサー・キングが発言した時代から大きな変化は起きていません。日曜礼拝のもっとも一般的な時間帯である朝 11 時台は、キリスト者の一致を示すものではなく、むしろ、人種や社会的境界線に沿った分裂を示すことがしばしばです。イザヤが語ったように、信仰をもつ人々のこのような偽善は、神の前で罪となります。「あなたがたが祈りを多く献げても、聞くことはない。あなたがたの手は血にまみれている」(15 節。聖書協会共同訳)

善を行うことを学べ

2023年キリスト教一致祈祷週間のために選ばれた聖句の中で預言者イザヤは、わたしたちがこうした病をどのように治すべきかを教えています。

善を行うことを学ぶには、自己内省する決心が必要です。一致祈祷週間は、わたしたちの諸教会や諸教派間の分裂が、より広い人類家族の分裂と密接につながっていることをキリスト者が認識する絶好の機会です。わたしたちがキリスト教一致のためにともに祈ることで、何がわたしたちを結びつけているのかを考え、人類の中にある抑圧と分断に立ち向かうことに尽力できるのです。

預言者ミカは、何が善で、神がわたしたちに何を求めておられるかを指摘しています。「正義を行い、いつくしみを愛し、へりくだって神とともに歩むこと」(ミカ6・8)です。公正に行動するということは、すべての人を尊重することです。正義は、「人種」、ジェンダー、宗教、社会経済的地位に基づく歴史的不利益に対処するために、真に公正な扱いを求めるのです。へりくだって神とともに歩むには、悔い改め、償い、そして最後に和解が必要です。すべての神の子らに対する公正さのために、わたしたちが責任を共有し、団結することを神は期待しておられます。キリスト者の一致は、被造物全体の和解した一致のしるしであり、前触れであるべきです。しかし、キリスト者の分裂はそのしるしの力を弱め、教会の使命である世界の傷へのいやしをもたらすどころか、分裂を加速することへと働いてしまいます。

正義を追い求めよ

イザヤは、ユダが正義を求めるよう助言します(17節)。つまり、彼らの社会に不正義と抑圧が存在することを認めているのです。イザヤはユダの人々にこの現状を打破するよう懇願しています。正義を求めるには、他者に悪を加える人々との対峙が必要です。これは簡単ではなく、時には争いに発展することもあります。イエスは、抑圧に直面しても正義のために立ち上がることが、天のみ国につながると断言しています。「義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」(マタイ5・10)。世界中の多くの

地域にある諸教会は、自分たちがいかに社会的規範に迎合し、人種に関する不正義に沈黙し、あるいは積極的に加担してきたかを認めなければなりません。人種の偏見は、キリストのからだを引き裂いた、キリスト教分裂の原因の一つです。白人優越主義や「発見の教義」²といった有害なイデオロギーは、とくに北米やヨーロッパの白人勢力によって植民地化された世界中の土地に、何世紀にもわたって多くの害を及ぼしてきました。キリスト者としてわたしたちは、抑圧のシステムを壊し、正義を擁護する意志をもたなければなりません。

ミネソタの執筆グループが「キリスト教一致祈祷週間」のためのテキストを準備した本年は、世界中がさまざまなかたちの抑圧による悪と惨状に満ちていました。この苦しみは、多くの地域、とくに南半球で、新型コロナウイルス感染症の大流行によって大きく拡大し、多くの人にとって基本的な生活さえほとんど不可能となり、実効的な援助もほとんど得られなくなったのです。コヘレトの言葉の作者は、現在の経験を語っているように思えます。「わたしはあらためて、太陽のもとに行われる虐げのすべてを見た。見よ、虐げられる人の涙を。彼らを慰める者はない。見よ、虐げる者の手にある力を。彼らを慰める者はない」(コヘレト4・1)。

抑圧は全人類に害を及ぼします。正義なくして一致はありえません。キリスト教一致のために祈るとき、わたしたちは現在および何世代にもわたる抑圧を認め、これらの罪を悔い改めるために断固とした態度で臨まねばなりません。「お前たちの血にまみれた手」であるがゆえに、「洗って、清くせよ」(15、16節)というイザヤ書の命令を自らのものとしうるのです。

虐げられる人を救え

聖書は、キリストとの関係性を、神のすべての人々、とくに「もっとも小さい者」(マタイ25・40)である人々に対する態度から切り離すことはできないと教えています。わたしたちが互いに献身するには、ヘブライ語で修復的正義を意味する「ミシュパット」に取り組み、声が聞き届けられない人々のために

²「発見の教義」は、教皇アレクサンドロ六世の大勅書(1493年5月4日)に基づくもので、先住民族や奴隷の子孫について、あらゆる面で教会を利するものとして世界中に浸透していた。植民地化した国がそれを「発見した」という理由で、先住民族の土地の接収を正当化したのである。

代弁し、不正義を生み出し維持する構造を解体し、だれもが公平な扱いと受け取るべき諸権利を促進し確保する、現在とは異なる構造の構築が必要です。この働きは、わたしたちの友人、家族、信徒を超えて、全人類に及ばなければなりません。キリスト者は、苦しんでいるすべての人の叫びを聞き、彼らの苦しみやトラウマの物語をよりよく理解し、それにこたえるために、出向いて行くよう求められているのです。マーティン・ルーサー・キング牧師はしばしば、「暴動は聞き届けられない人たちのことばです」としていました。抗議や市民の騒乱が起こるのは、往々にして、抗議する人の声が聞き届けられていないからです。もし諸教会が虐げられた人々の声と一緒になれば、正義と解放を求める彼らの叫びはますます大きくなるでしょう。わたしたちは、一致のうちに互いに仕え合い、愛し合うことで、神と隣人に仕え、愛するのです。

孤児を守り、やもめを弁護せよ

ヘブライ語聖書において、やもめや孤児は、寄留者と並んで、社会のもっとも弱い立場の人々の代表として、特別な位置を占めています。イザヤの時代、経済的に繁栄していたユダでは、孤児ややもめは、保護や、土地所有の権利も奪われ、自活する能力を失い、絶望的な状況でした。この預言者は、共同体が繁栄を喜びながらも、もっとも貧しい人や、弱い人を守り育てることを怠ってはならないと呼びかけました。この社会でもっとも弱い立場にあるのはだれなのか考えるとき、この預言者の呼びかけは、わたしたちの時代にも響いてきます。

わたしたちの共同体の中で、だれの声が聞き届けられていないでしょうか。食卓にいないのはだれであり、それはなぜでしょう。キリスト教一致のための対話、共通の行動、祈りから抜け落ちているのは、どの教会、どの共同体でしょうか。この「祈祷週間」の間、ともに祈りながら、このような不在の声に対して、わたしたちは何をしようとしているのでしょうか。

おわりに

イザヤは当時の神の民に、ともに善を行い、ともに正義を追い求め、ともに虐げられる人を救い、ともに孤児を守り、やもめを弁護することを学ぼう求めました。この預言者の挑戦は、今日のわたしたちにも同じく当てはまります。この時代の悪と不正義に立ち向かうために、わたしたちはキリスト者として、どのように一致して生きていけばよいのでしょうか。どのように対話し、互いの生活経験についての認識、理解、洞察を深めていくことができるのでしょうか。

これらの祈りと心の触れ合いは、個人としても集団としても、わたしたちを変える力をもっています。自らが変容し、抑圧の構造を解体し、人種差別の罪をいやそうとするとき、わたしたちのあらゆる出会いの中におられる神の現存に心を開きましょう。ともにわたしたちは、この社会における正義のための闘いに加わりましょう。わたしたちは皆、キリストに属しているのです。

2023年キリスト教一致祈禱週間の資料の準備

2023年キリスト教一致祈禱週間のテーマは、ミネソタ教会協議会が招集した米国のキリスト者グループによって選ばれ、資料が準備されました。2020年12月、このグループは初めてオンラインで会合しました。多くはすでに旧知の仲で、全員がミネソタ教会協議会の活動を知っており、中にはその組織のリーダーであると同時に、自分の教派や地域社会の活動家／牧師である人もいました。教皇庁キリスト教一致推進省と世界教会協議会信仰職制委員会が共催する、2023年キリスト教一致祈禱週間の資料をまとめる国際グループは、2021年9月19日から23日までスイスのシャトー・ドゥ・ボッセーで、ミネソタ教会協議会の代表者と会合をもちました。

長年にわたりミネソタ州は、全米において最悪の人種間格差を抱えてきました。ミネソタ州では、1862年、ダコタ戦争後のクリスマスの翌日、マンケートでダコタ先住民38人が絞首刑に処され、米国史上最大の大量処刑となりました。このとき、38人は死を覚悟して、「ワカンタンカ・タク・ニタワ(多くの大いなる)」という賛歌を歌いました。この賛歌は今回の礼拝冊子に収録されています。最近では、ミネソタ州は人種差別撤廃の発信地となっています。2020年3月に新型コロナウイルスによって世界が封鎖されていたとき、ミネアポリスの警察官デレック・ショービンの手によってアフリカ系アメリカ人の青年ジョージ・フロイドが殺害されたことに対し、世界中の人々が団結のうちに正義の怒りをもって街に出て、テレビで目撃した不正義に抗議を表明しました。この事件の直後に解雇されたショービンは³、ミネソタ州において黒人殺人の罪で有罪判決を受けた史上初の警察官となりました。

米国には、有色人種コミュニティが不当に扱われてきた歴史があり、コミュニティ間の長年の不正と不和を生み出してきました。その結果、米国の諸教会の歴史には、教会分裂の主要な要因として人種問題が含まれています。世界の他の地域でも、教義以外の他の問題が同様の役割を担っています。だからこそ、世界教会協議会信仰職制委員会が行う一致に関する神学的働きは、以前よ

³ ショービンは、ミネアポリス初のアフリカ系アメリカ人警察署長であるメダリア・アラドンドによって解任された。

り、諸教会の一致の探求と、人種差別のような人類家族内の分断の壁を克服するための探求とを結び合わせようとするものであったのです。だからこそ、祈り、とくにキリスト教一致のための祈りは、神の似姿としての尊厳をもって創造された人間であるわたしたちの間を隔てるものと格闘する中で行われるとき、さらに重要な意味をもつのです⁴。ミネソタ教会協議会は、すでにこれらの歴史的な人種差別の問題に取り組んでおり、今年のキリスト教一致祈祷週間の聖書朗読、テーマ、音楽、礼拝を具体化する作業部会を招集しました。

この作業部会は、騒乱の最前線で働いてきたミネソタ州の世代を超えた聖職者と信徒リーダーで構成されています。彼らは、この地域で霊的ケアと共同体のケアの両方を担当し、神の民の不満と叫びをあかしてきたのです。この作業部会のメンバーは、さまざまな文化的、霊的共同体を代表しており、まず見直されるべきだと最近いわれている、先住民やアフリカ系アメリカ人の共同体からの参加もあります。この資料を作成している間も、こうした各共同体は越権行為による殺害⁵、肥大する暴力による子どもの死亡、パンデミックの結果としての継続的な苦難を経験してきました。

米国議会議事堂への襲撃、元警官デレック・ショービンの裁判、ジョージ・フロイド殺害の記念日を経たことで、オンラインでの執筆会議は、熱量、支え、祈りに満ちた神聖で安全な空間となりました。

執筆グループのメンバーは、男性、女性、母親、父親、作家、治療師などさまざまでした。彼らは、今ではこの地が故郷であるという、アメリカの先住民や、自らの出身地の言語や文化の歴史にそれぞれのレベルでかかわりをもつ強制的あるいは自発的に移住してきた共同体の人たちで、多様な礼拝経験や霊的表現を代表しています。メンバーは、都市部や郊外、そしてさまざまなキリスト教共同体を代表していました。この多様性により、さまざまな視点からの深い考察と連帯が生まれました。

ミネソタの執筆グループのメンバーは、人種差別や人間尊厳の棄損という自

⁴ 以下の文章を参照のこと。Unity in Today's World - The Faith and Order Study on the Unity of the Church and the Unity of Humankind, Geneva, WCC, 1978; Church and World - The Unity of the Church and the Renewal of Human Community, Geneva, WCC, 1990.

⁵ 国家権力によって、法的・司法的な手続きを経ずに行われる殺害を指す。例として、2021年4月に起きたダンテ・ライトの射殺事件が挙げられる。

らの経験が、神の子らが互いに人間性を欠いたことの証言となるよう期待しています。それは、キリスト者として、わたしたち皆がキリストに属しているという現実を理解し経験することを妨げている分断に対処し根絶するために、神のたまものである一致の体現を心から切望するがゆえのことでもあるのです。

国際チームからの参加者

- Revd Father Martin Browne, OSB / Glenstal Abbey (Ireland)
- Ms Anne-Noëlle Clément / Unité Chrétienne (France)
- Revd Anthony Currer / Pontifical Council for Promoting Christian Unity (Vatican)
- Dr Masiwa R. Gunda / Programme Executive for Overcoming Racism, Discrimination and Xenophobia- WCC (Switzerland)
- Revd Dr Odair Pedroso Mateus / Director of Faith and Order - WCC (Switzerland)
- Revd Father James Puglisi, SA / Friar of the Atonement, Centro Pro Unione (Italy/USA)
- Revd Dr Mikie Roberts / Programme Executive for Spiritual Life - WCC (Switzerland)
- Revd Dr Jochen Wagner / Arbeitsgemeinschaft Christlicher Kirchen in Deutschland (Germany)

ミネソタ教会協議会からの参加者

- Revd Dr DeWayne L. Davis / Pastor, Plymouth United Church of Christ, South Minneapolis
- Revd Jia Starr Brown / Pastor, First Covenant Church, Minneapolis
- Revd Anthony Galloway / Pastor, St. Mark African Methodist Episcopal Church Duluth, Minnesota
- Presiding Elder Revd Stacy L. Smith / Presiding Elder, St. Paul/ Minneapolis District African Methodist Episcopal Church

- Ms Leslie E. Redmond Esq. / Founder of Don't Complain Activate & Former President of Minneapolis NAACP
- Revd Dr Kelly Sherman Conroy / Nativity Lutheran Church, Minnesota
- Revd Jim Bear Jacobs / Minnesota Council of Churches
- Revd Antonio Machado / Evangelical Lutheran Church of America Dr Cynthia Bailey Manns Director of Adult Education, Saint Joan of Arc Catholic Church
- Revd Dr Curtiss DeYoung / CEO Minnesota Council of Churches
- Revd Dr Amy Gohdes-Luhman / Pastor, Waconia Moravian Church, Waconia Minnesota

エキュメニカル礼拝

はじめに

川と水のモチーフは、この礼拝資料を制作した現地委員会と、文化的に深くかかわっています。ミネソタ州においては、川と水は、この地域の歴史の中で、文化の発祥と大量虐殺の両方を意味してきました。

またこのモチーフには、神学的、典礼的な意味もあります。北半球でキリスト教一致祈祷週間は、多くの教派が「主の洗礼」を祝って間もなくの1月に行われます。存在し、かつ存在しつつあるこの愛すべき共同体に、すべての人は属し、その一員であるという信念によって、社会正義、とくに人種にかかわる正義の活動は力づけられ、すべての被造物は正義と平和を実現する神との共同創造者であると公にアかしし、それを支えるよう呼びかけられているのです。

世界の他の地域では、キリスト教一致祈祷週間は、教会の誕生を祝い、わたしたちがキリストのからだのうちに生ける石として建てられる、聖霊降臨の前後に行われます。教会は、多様性のただ中で、聖霊がもつ一致と預言の力によって建てられます。多様性の中での一致と、この一つにする預言的な力が、正義の働きを促進し、わたしたちの共通の人間性を明らかにし、神の力によってアかしする能力に加え、違いがあっても対話する能力を与えてくれます。

ミネソタ先住民族における石と水の結びつきは、いのちの価値と重要性を理解することにかかわるものです。ほとんどのアメリカ先住民族の知恵において、水と石は神聖なものです。水はいのちであり、石は何世代もがその上に立ってきた大地の神聖さを表しています。すべての被造物には神の霊が宿っており、それゆえわたしたちは皆つながっているのです。二つのシンボルが礼拝では用いられます。新しいいのちへの洗礼を表す「水」と、わたしたち自身と先祖の歴史を表す「石」です。

あいさつの後、今年の祈祷週間のテキスト（イザヤ1・12 - 18）を取り入れた罪の告白とゆるしの時を過ごします。礼拝中、悔い改めの行為の一部として、16節と17節が読まれる間に、司式者は水差しで洗礼盤（または水盤）に

水を注ぎ込みます。このとき、語られていることや、象徴的に思い起こされることの意味を会衆が黙想できるよう、ゆっくりと音が聞こえるように行うことが重要です。罪の告白とゆるしの後、はじめの祈り、賛歌、ことばの典礼が行われます。

イザヤ書のテキストに基づいて、説教や講話では、キリスト教一致の問題と、個人や組織による人種差別の不正義の問題とを結びつける必要があります。「人種」、文化、言語によって人々が疎外されることは、人類共同体を引き裂き、わたしたちのキリスト教共同体の分裂の原因となっています。キリスト教一致は、強固で、目に見えるものでなければなりません。わたしたちが洗礼によって受けたのと同じ霊が、いかに神の被造物の豊かな多様性から一致を生み出し、それが人類一致のための神の計画であるかを語るためにです。

説教はまた、その後続く象徴的な行為につながるべきものです。始めに、参加者全員に石を渡します。礼拝とともに計画するグループは、人種差別による不正義について、またいかにキリスト教の一致が不正義の克服に役立つかを語る人を2、3人選び、招待してもよいでしょう。それぞれの話の後、話し手は自分の石を、隅の親石であるキリストの象徴である十字架や火のついたろうそくの周りに置きます。この礼拝部分は、15分程度で終わるように計画する必要があります。この象徴的な行為の終わりに、司式者は会衆に、礼拝の後も話を続けるように勧めることもできます。

礼拝は、人々の祈り、主の祈り、祝福と派遣をもって終わります。礼拝の各場面で用いられる音楽が示されており、付録には推奨されるテキストや賛歌が掲載されています。

このエキュメニカルな礼拝は、地域の状況や伝統に合わせて、表現の多様性や、地域の儀式や祈りといった他の実践要素を盛り込んで拡張できるよう、単純な式文となっています。この式文に書かれたことばを通して、ミネソタに住む、奴隷とされたアフリカ系アメリカ人や先住民族の、今日の子孫たちの心情、苦悩、希望を伝えたいと思っています。このことは、とくに礼拝のために選ばれた賛歌や歌の中で強調されています。

礼 拝 式 文

前奏曲

礼拝への招き

姉妹、兄弟の皆さん、わたしたちは父と子と聖霊のみ名においてここに集っています。

洗礼の水によって、わたしたちはキリストのからだの一員となりましたが、わたしたちの罪は互いに苦悩と傷を与えてきました。

わたしたちは善を行うことができませんでした。

深刻な抑圧に直面しても正義を追い求めず、やもめや孤児を世話しなさいという神の命令（イザヤ1・17）を聞き入れませんでした。

ここに集い、自分たちが行ったこと、行わなかったことを省み、善を行い、正義を追い求めることを学びましょう。

分裂を乗り越え、共同体の分裂を助長してきた制度や構造を根こそぎ取り除くために、わたしたちは神の恵みを必要としています。

キリスト者として有している一致を強めるため、わたしたちは集まって祈ります。「わたしたちの心を開き、わたしたちのうちにある包摂する豊かさと多様性の宝を大胆に見いだせますように。信仰のうちにわたしたちは祈ります」。⁶

賛歌

Many and great, O God (ダコタの賛歌) (28 ページ)

歓迎のことば

罪の告白とゆるしへの招き

(イザヤ1・12 - 18による罪の告白とゆるし)

⁶ マーティン・ルーサー・キング牧師。

司 式 者 預言者イザヤのことばによって、わたしたちの罪を告白しましょう。

朗 読 者 1 こうしてわたしの顔を仰ぎ見に来るが、だれがお前たちにこれらのものを求めたか。わたしの庭を踏み荒らす者よ。むなしい献げ物を再び持って来るな。香の煙はわたしの忌み嫌うもの(12 - 13a)。

会 衆 主よ、わたしたちがみ前を謙虚に歩むことなくあなたを礼拝することをゆるしてください。

(沈黙)

朗 読 者 2 新月祭、安息日、祝祭など、災いを伴う集いにわたしは耐えない。お前たちの新月祭や、定められた日の祭りを、わたしは憎んでやまない。それはわたしにとって、重荷でしかない。それを担うのに疲れ果てた(13b - 14)。

会 衆 世界中で実感させられた植民地主義の悪に、教会が加担してきたことをゆるしてください。

(沈黙)

朗 読 者 3 あなたがたが両手を広げても、わたしは目をそらし、あなたがたが祈りを多く献げても、聞くことはない。あなたがたの手は血にまみれている(15節。聖書協会共同訳)

会 衆 被造界の多様性に満ちた調和を圧迫する、わたしたちの不正義と抑圧の罪をおゆるしてください。

(沈黙)

(次の聖書朗読の間、司式者は洗礼盤 [または、水盤] に水をゆっくりと注ぐ)

朗読者 4 洗って、清くせよ。悪い行いをわたしの目の前から取り除け。悪を行うことをやめ、善を行うことを学び、裁きをどこまでも実行して、搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り、やもめの訴えを弁護せよ (16, 17)。

会 衆 生ける洗礼の水で清められたわたしたちを、新たにゆるし、互いに、そして被造物と和解させてください。

(沈黙)

朗読者 5 論じ合おうではないか、と主は言われる。たとえ、お前たちの罪が緋のようでも、雪のように白くすることができる。たとえ、紅のようであっても、羊の毛のようにすることができる (18)。

司 式 者 神がその恵みのうちに、皆さんを罪から解放し、それによって皆さんが正義を行い、いつくしみを大事にし、へりくだって神とともに歩むことができますように。

(沈黙)

司 式 者 全能の神が、わたしたちの祈りを聞き入れ、わたしたちをあわれみ、わたしたちの罪をおゆるしくくださいますように。

会 衆 神に感謝。

祈り

司 式 者 すべてのものの神よ、わたしたちの心とからだは、あなたのみ前に進み出て、わたしたちの不正義と分裂の罪を告白するこの機会に感謝します。

わたしたちはともに、被造界のすばらしい多様性の中で一つになった、聖なる家族としてみ前に進み出ます。先住民族もいれば、奴隷にされた人の子孫もいて、奴隷にした人の子孫もいて、移住者もいて、難民もいて、しかしわたしたちは皆、キリストという一つのからだの部分なのです。

洗礼の生ける水によって、緋のように赤いわたしたちの罪が洗い流され、いやされ、神の家族という愛すべき共同体の一員となったことを賛美します。造り主である神よ、感謝と賛美をささげます。

この旅で、わたしたちは心と目を開き、すべての人々の間で共有され受け継がれてきた聖なる知恵を理解し、成長するよう、この礼拝をともに祝います。わたしたちが互いに一致を受け入れられるよう助け、被造界のただ中にある聖霊によって集められた一つの家族であることを思い起こさせてください。

会 衆 アーメン。

賛歌

Wade into the water (30 ページ)

書簡朗読 エフェソ (2・13 - 22)

詩編 42 (答唱の形で)

朗 読 涸れた谷に鹿が水を求めるように、神よ、わたしの魂はあなたを求める。

神に、いのちの神に、わたしの魂は渴く。いつみ前に出て、神のみ顔を仰ぐことができるのか。

会 衆 神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう、「み顔こそ、わたしの救い」と。

朗 読 昼も夜も、わたしの糧は涙ばかり。人は絶え間なくいう、「お前の神はどこにいる」と。

わたしは魂を注ぎ出し、思い起こす。喜び歌い感謝をささげる声の中を、祭りに集う人の群れとともに進み、神の家に入り、ひれ伏したことを。

会 衆 神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう、「み顔こそ、わたしの救い」と。

朗 読 なぜうなだれるのか、わたしの魂よ、なぜうめくのか。神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう、「み顔こそ、わたしの救い」と。

わたしの神よ。わたしの魂はうなだれて、あなたを思い起こす。

会 衆 神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう、「み顔こそ、わたしの救い」と。

朗 読 昼、主は命じていつくしみをわたしに送り、夜、主の歌がわたしとともにある。わたしのいのちの神への祈りが。

わたしの岩、わたしの神にいおう。「なぜ、わたしをお忘れになったのか。なぜ、わたしは敵に虐げられ、嘆きつつ歩くのか」。

会 衆 神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう、「み顔こそ、わたしの救い」と。

朗 読 わたしを苦しめる者はわたしの骨を砕き、絶え間なくあざけっ
ていう、「お前の神はどこにいる」と。

なぜうなだれるのか、わたしの魂よ、なぜうめくのか。

会 衆 神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう、「み顔こそ、わたしの救い」と。

福音朗読 マタイ (25・31 - 40)

賛歌

Come thou fount of every blessing (31 ページ)

説教

(説教後、沈黙または賛歌)

石と物語

(話をするよう選ばれている人は前に出る)

司 式 者 何人かの話聞きましよう。生ける石として、わたしたちは語り継がれる物語の証人となるのです。それぞれの物語によって、キリストのからだは建てられ、組み上げられていきます。わたしたちの物語は、わたしたちキリスト者の一致の隅の親石であるキリストの物語と結びついているのです。神がわたしたちを交わりのうちに創造されたように、わたしたちの物語も結びついているのです。それぞれの石を手に、これらの物語を聞きながら思いをめぐらせましよう。

(語り手たちが証言を行う。それぞれの話の後、会衆は以下のように唱える)

会 衆 「善を行い、正義を追い求めなさい」というイザヤの招きにこたえるよう決意します。

賛歌

What a fellowship, what a joy divine (32 ページ)

執り成しの祈り

司 式 者 信仰と確信のうちに、父と子と聖霊である神のみ前で祈ります。
造り主である神よ、今日、わたしたちは、ある人々にとっては
持続不可能で、ある人々にとっては過剰な生活をもたらした、
行動の結果に囲まれて生活しています。すべての人の益のため
に、そして被造界を尊ぶために、神がわたしたちに与えてくだ
さった資源を、いかに責任をもって使用すべきかを理解できる
よう導いてください。被造界は、あなたに向かってうめき、叫
んでいます。

会 衆 わたしたちに教え、道を示してください。

司 式 者 いつくしみ深い神よ、わたしたちが互いに与えた傷と、あなた
の民の間に生み出した分裂を修復できるよう助けてください。
キリスト・イエスが弟子たちに聖霊を吹き込んで、新たな創造
の共同体を生み出したように、あなたの恵みを送ってわたした
ちの分裂をいやし、イエスが祈られた一致をわたしたちにお与
えください。

会 衆 わたしたちに教え、道を示してください。

司 式 者 道であり、真理であり、いのちであるキリスト。あなたは行わ
れた善により、地上でのわざの中で正義を体現し、人を隔て、
壁や、閉じ込める偏見を打ち砕かれました。わたしたちは大勢
でも、あなたのうちに一つであることを理解できるよう、心と
思いを開いてください。

会 衆 わたしたちに教え、道を示してください。

司 式 者 聖霊、あなたは地の面を新たに創造されます。山々の頂、空の雷、湖の波音がわたしたちに語りかけてきます。

会 衆 わたしたちはつながっているからです。

司 式 者 星の瞬き、朝のさわやかさ、花の露がわたしたちに語りかけてきます。

会 衆 わたしたちはつながっているからです。

司 式 者 貧しい人、抑圧された人、周縁に追いやられた人の声がわたしたちに語りかけてきます。

会 衆 わたしたちはつながっているからです。

司 式 者 しかし、何よりもわたしたちの心はあなたに向かって高く上り、あなたに「アッバ、父よ」と叫び、祈ります。

会 衆 天におられるわたしたちの父よ……

閉式の祈り

司 式 者 永遠の神よ、聖なる共同体に集うこれらの人々の顔をご覧になり、お望みのおりにお遣わしてください。

彼らが物語を語り、善を行い、その行動を通して被造界のために正義を追い求め続けるよう、聖霊によって励ましてください。彼らが一つになり、あなたが世のいのちのために遣わされた独り子イエスを世が信じるよう、支えてください。

派遣

司 式 者 主が皆さんを祝福し、守られますように。
主がみ顔を上げて皆さんを照らし、恵みを与えられますように。
主がみ顔を皆さんに向け、平和が与えられますように。

会 衆 アーメン。

賛歌

Lift every voice and sing (33 ページ)

Hymn Many and great, O God (Dakota Hymn)⁷

1 Wakantanka taku nitawa tankaya qa ota;
mahpiya kin eyahnake ça,
maka kin he duowanca;
mniowanca šbeya wanke cin, hena oyakihi.

2 Woehdaku nitawa kin he minagi kin qu wo;
mahpiya kin iwankam yati,
wicowašte yuha nanka,
wiconi kin he mayaqu nun, owihanke wanin.

1 Many and great, O God, are your works, maker of earth and sky.
Your hands have set the heavens with stars;
your fingers spread the mountains and plains.
Lo, at your word the waters were formed; deep seas obey your voice.

2 Grant unto us communion with you, O star-abiding One.
Come unto us and dwell with us;
with you are found the gifts of life.
Bless us with life that has no end, eternal life with you

Paraphraser: Philip Frazier; Author: Joseph Renville (1842)

* これらの賛歌は、2023年キリスト教一致祈祷週間の第1プロジェクトを遂行したミネソタ教会協議会執筆グループによって提案され、その責任のもとに掲載される。

7. This hymn was sung by thirty-eight Dakota prisoners of war as they were led to execution at Mankato, Minnesota, on December 26, 1862. This song was first published in the Dakota Indian Hymnal (1916) and is perhaps the only Native American hymn to be sung broadly in North America beyond its original Dakota culture. The author, Joseph Renville, was indigenous Dakota and the translator of this hymn is Francis Philip Frazier.

• 121



Man - y and great, O God, are your things, Mak - er of earth and sky.
 Zahl - reich und groß ist, Gott, was du schufst, Er - de und Him - mels - welt!
 Mu - chas y gran - des tus o - bras son. Crea - dor de cie - lo y tierra.



Your hands have set the heav - ens with stars; your fin - gers spread the moun - tains and plains.
 Dei - ne Hand weist den Ster - nen die Bahn, du gabst Ge - stalt den Ber - gen, dem Tal.
 Tu ma - no pu - so es - tre - llas al cie - lo mon - tes y lla - nos has es - par - ci - do,



Lo, at your word the wa - ters were formed; deep seas o - bey your voice.
 Ja, auf dein Wort das Was - ser sich teilt, Mee - re ge - hor - chen dir.
 por tu pa - la - bra el a - gua bro - tó, tu voz es - cu - cha el mar.

hand drum or tom-tom



2. Grant unto us communion with you,
 you star abiding one;
 come unto us and dwell with us;
 with you are found the gifts of life.
 Bless us with life that has no end,
 eternal life with you.

2. Wir bitten, gib' Gemeinschaft mit dir,
 du bist das Licht, das bleibt.
 Komme zu uns und wohne bei uns,
 du hältst des Lebens Gaben bereit.
 Segne mit Leben, das nie vergeht,
 das ewig lebt bei dir.

2. Que entre nosotros tu siempre estés
 Sé tú el principal
 En medio nuestro ven a morar
 contigo esté el don de la vida
 Bendícenos con vida sin fin
 Vida eterna en ti.

English, paraphrased by Philip Frazier. German, Dieter Trautwein. © Strube-Verlag GmbH, Pettenkoferstr. 24, D-80336 München, Germany. Spanish, Juan A. Gattinoni. CLAI, 1406 Buenos Aires, Argentina.

Hymn Wade into the water⁸

African American Spiritual
arr. James Mblongon

Traditional

Wade in the wa - ter, wade in the wa - ter chil - dren, wade in the wa - ter,

God's gon - na trou - ble the wa - ter. See that host all dressed in white,
See that band all dressed in red,
If you don't be - lieve I've been re - deemed,

God's gon - na trou - ble the wa - ter. The lead - er must be the
Looks like the band that
Just fol - low me down to

Is - rael - ite, God's gon - na trou - ble the wa - ter.
Mo - ses led,
Jor - dan's stream,

© 2009 GIA Publications, Inc.

8. This is an African American Jubilee Spiritual by Frederick J. Work and John Wesley Work Jr. (1901), based upon the narrative of John 5:2-9. For the enslaved, this song represented the struggles of life and the empowerment of freedom. Within the context of the ‘troubled’ waters of life there are healing waters, because God is in the midst of the turmoil.

Hymn Come thou fount of every blessing

Robert Robinson

J. Wyeth Repository of Sacred Music 1813: USA

1. Come, thou Fount of ev - ery bless - ing tune my heart to sing thy
 2. Here I raise my E - be - ne - zer: "Hi - ther to thy help I've
 3. O to grace how great a deb - tor dai - ly I'm con - strained to

grace: streams of mer - cy, nev - er ceas - ing call for
 come;" And I hope, by thy good pleas - ure safe - ly
 be. Let that grace now, like a fet - ter bind my

songs of loud - est praise. Teach me some me - lo - dious
 to ar - rive at home Je - sus sought me when a
 wan - dering heart to thee. Prone to wan - der, Lord, I

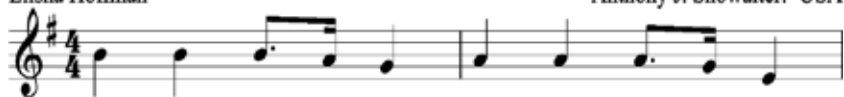
son - net sung by flam - ing tongues a - bove. Praise the
 stran - ger wan - dering from the fold of God. He, to
 feel it. Prone to leave the God I love. Here's my

mount, I'm fixed up - on it, mount of thy un - chang - ing love
 re - scue me from dan - ger in - ter - posed his pre - cious blood.
 heart, O take and seal it. Seal it for Thy courts a - bove.

Hymn What a fellowship, what a joy divine⁹

Elisha Hoffman

Anthony J. Showalter: USA



1. What a fel - low - ship, what a joy di - vine,
2. Oh, how sweet to walk in this pil - grim way,
3. What have I to dread, what have I to fear,



lean - ing on the ev - er - last - ing arms; what a bless - ed - ness,
lean - ing on the ev - er - last - ing arms; oh, how bright the path
lean - ing on the ev - er - last - ing arms I have bless - ed peace



what a peace is mine, lean - ing on the ev - er - last - ing arms.
grows from day to day, lean - ing on the ev - er - last - ing arms.
with my Lord so near, lean - ing on the ev - er - last - ing arms.



Lean - ing lean - ing, safe and se - cure from all a - larms;



lean - ing lean - ing, lean - ing on the ev - er - last - ing arms.

9. This hymn, authored in 1887 by E. A. Hoffman, was inspired by Deuteronomy 33:27. It is meant to help contemplate what it means to find refuge in our heavenly Father's arms in times of fear and trial, and to allow God's joy and peace to replace our loneliness and anxiety.

Closing Hymn

Lift every voice and sing¹⁰

James Weldon Johnson

J. Rosamond Johnson: African-American

1. Lift ev - ery voice and sing till earth and heav - en
 2. Ston - y the road we trod, bit - ter the chas - tening
 3. God of the wea - ry years, God of our si - lent

ring, ring with the har - mo - nies of lib - er -
 rod, felt in the days when hope un - born had the
 tears, Thou who hast brought us thus far on the

ty. Let our re - joic - ing rise high as the lis - tening
 died; yet, with a stead - y beat, have not our wea - ry
 way; Thou who hast by thy might led us in - to the

skies; let it re - sound loud as the roll - ing sea.
 feet come to the place for which our par - ents sighed?
 light: keep us for - ev - er in the path, we pray.

Sing a song full of the faith that the dark past has taught us;
 We have come o - ver a way that with tears has been wa - tered;
 Lest our feet stray from the plac - es, our God, where we met thee;

10. This is an African American Jubilee Spiritual which was written by James Weldon Johnson (1900). It is often referred to as the Black national anthem in the United States. The song is a prayer of thanksgiving for faithfulness and freedom for the enslaved voicing a cry for liberation and affirmation for African American people.

八日間の聖書の黙想と祈り

第1日 善を行うことを学ぶ

イザヤ1・12 - 18 善を行うことを学び、裁きをどこまでも実行して、搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り、やもめの訴えを弁護せよ。

ルカ10・25 - 36 「では、わたしの隣人とはだれですか」といった。

黙想

イザヤ書によれば、神はユダが正義を行うだけでなく、つねに正しいことを行うという原則を受け入れるよう望んでおられます。神はわたしたちに、孤児ややもめの世話をするだけでなく、彼らのほか、社会から疎外されているあらゆる人のために正しいこと、善を行うようにと願っておられます。ヘブライ語で「善」は「ヤウタブ (yaw-tab')」といい、うれしい、楽しい、喜ばしい、うまくいく、すばらしいものにする、という意味です。

キリスト者になるとは、弟子になるということです。キリスト者は皆、神のことばのもとに腰掛け、善を行うとはどういうことか、この連帯を必要としているのはだれなのかをともに学びます。社会が他者の必要に無関心になればそれだけ、神の子であるわたしたちは、権力に対して真実を語ることで、抑圧された兄弟姉妹のための大義に取り組み、必要ならば、彼らが正義とともに平和に暮らせるようにその言い分を代弁することを学ばなければなりません。そうすることで、つねに正しいことを行えるのです。

人種差別の罪を根絶し、いやすために、わたしたちはキリスト者の兄弟姉妹との関係性を維持する心構えと意志をもたなければなりません。

キリスト者の一致

律法の専門家はイエスに「では、わたしの隣人とはだれですか」と尋ねました。イエスの答えは、宗教、人種、国籍の違いを超えて、困っている隣人を見極めるよう求めています。キリスト者も同様に、こうした分断や、キリスト者家族の中の分裂を超えて、キリストのうちにある兄弟姉妹を認め、愛さなければなりません。

課題

皆さんの社会の名で、疎外され、虐げられているのはどういう人ですか。教会はどのようにこれらの兄弟姉妹とともに歩み、彼らの必要にこたえ、彼らのために声を上げられるでしょうか。

祈り

主よ、あなたをご自分の民を奴隷状態から自由へと招き入れました。

正義を求めて立ち上がっている人々を探しだす強さと勇気を、わたしたちにお与えください。わたしたちがこうした必要に気づき、助けをもたらせるようにし、また聖霊を通して、わたしたちの牧者、イエス・キリストの一つの群れへと、わたしたちを集めてください。アーメン。

第2日 裁きが行われるとき……

箴言 21・13 - 15 裁きを行うことは、神に従う人には喜び、悪を行う者には滅び。

マタイ 23・23 - 25 正義、慈悲、誠実。これこそ行うべきことである。

黙想

箴言はその始めから、「論しを受け入れて、正義と裁きと公平に目覚める」(1・3) ための、知恵と教への提供を目的としています。その知恵のこぼれを通じて、正しく行動し、正義を追求するようたえず呼びかけられ、それは献げ物よりも神に受け入れられるものだと、繰り返し語られ、確認されています。正義が行われるとき、正しい人は喜ぶということを、知恵を表す珠玉の一文の中で証言しています。しかし、正義は不正を働く人を動揺させます。キリスト者は、その分断を超えて、正義が行われるときには喜びのうちの一つになり、この正義が反発を招くときには、ともに立ち上がる用意をしていなければなりません。主が求めておられることを行い、敢然と正義を追求して、わたしたちの中のもっとも弱い立場の人々のために正しいことを行おうとすると、抵抗や反対の渦に巻き込まれるかもしれません。

白人優越主義や、「カースト制」、家父長制といった抑圧的なイデオロギーに支えられた制度や構造から利益を得る人々は、しばしば暴力的に、正義の実現を遅らせ、否定しようとします。しかし、正義を追い求めることは、権力の中枢を突き動かすことであり、苦しみに無頓着なことがあまりにも多い世界の中に、神の公正な秩序と永続的な知恵のための空間を生み出すことでもあるのです。そしてなおかつ、正しいことを行う喜びがあります。抑圧され、支配され、搾取された神の最愛の人々のために正義を追求する中に、あの「ブラック・ライブス・マター」運動を支持する喜びがあるのです。

他のキリスト者との和解を模索し、み国を告げ知らせるためによりよく奉仕する中に喜びがあります。キリストにおけるいやし、和解、一致に向けて、神

がわたしたちとともに旅する、既知と未知の空間における共同体内での神の存在をわたしたちが共有する体験を通して、その喜びが現れるようにしましょう。

キリスト者の一致

福音書の1節でイエスが取り上げた宗教指導者たちは、世の中の不正義に慣れ、安住するようになっていました。彼らは、はっか、いのんど、ういきょうの10分の1をささげるような宗教的義務を喜んで実行しますが、正義、慈悲、誠実というもっと重要で価値の転換を求める要求をおろそかにしています。同様に、キリスト者たちは、わたしたちの間に存在する分裂に慣れ、安住するようになっていました。わたしたちは宗教的規律にはかなり忠実ですが、主の弟子たちが皆一つになるようにという挑戦的な願いをしばしばないがしろにしてしまいます。

課題

正義を行うことで起こりうる反発に耐えるために、地域の信徒はどのように互いに支え合うことができるでしょうか。

祈り

神よ、あなたはわたしたちの知恵の源です。正義を行い、この世の間違ったことに対してそれを正すことでこたえていく知恵と勇気を求めて、わたしたちは祈ります。

あなたの御子、イエス・キリストにおける一致のうちに成長していく知恵と勇気を求めて、わたしたちは祈ります。父と子と聖霊のみ国が世々に至るまで。アーメン。

第3日 正義を行い、いつくしみを愛し、へりくだって神とともに歩め

ミカ 6・6 - 8

主が何をお前に求めておられるかは、お前に告げられている。正義を行い、いつくしみを愛し、へりくだって神とともに歩むこと、これである。

マルコ 10・17 - 31

よい先生、永遠のいのちを受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。

黙想

わたしではなく、わたしたち。預言者は、神の契約に忠実であることが何を意味するのか、人々に警告しています。「主が何をお前に求めておられるかは、お前に告げられている。正義を行い、いつくしみを愛し、へりくだって神とともに歩むこと、これである」。聖書ヘブライ語で正義といつくしみは、それぞれ異なる、あるいは正反対のことばではありません。これらは実際、「ミシュパット (mishpat)」という一つのことばで結ばれています。神はわたしたちに何が善であるかを示し、いつくしみを愛し、へりくだって神とともに歩むことで正義を行うよう求めておられます。へりくだって神とともに歩むとは、他者とともに歩むということであり、したがってそれは、わたしの歩み、わたしの愛という、単なる個人の問題ではありません。

神がわたしたちを招き入れようとする愛はいつも、わたしたちを一致へと集める愛なのです。つまり、わたしではなく、わたしたちです。この洞察力が、「正義を行う」方法を一変させます。キリスト者としてわたしたちは、正しく行動することで神の国をこの世に現し、その結果、神の愛あるいつくしみの場へと他者を招き入れるのです。神のみ国の中で、わたしたちは皆、神の子として等しく愛され、神の教会として、わたしたちは兄弟姉妹として互いに愛し合い、その愛の中に他者を招き入れるよう呼ばれているのです。

正義を行い、いつくしみを愛し、へりくだって神とともに歩むため、キリス

ト者はともに行動し、自分たちの共同体の中で、神の国のために一致したあかしを立てるよう求められています。つまり、わたしではなくわたしたち、なのです。

キリスト者の一致

永遠のいのちを受け継ぐために何をすべきかをイエスに尋ねた金持ちの青年にとって、「へりくだってともに歩むこと」は難題でした。彼は若いころからおきてを守ってきましたが、自らの富のため、つまり自分の所有物に縛られていたため、イエスの弟子となる一歩を踏み出せなかったのです。キリスト者にとって、わたしたちが富と認識しているものを手放すことは、どれほど難しいことでしょうか。しかし、そうした富がわたしたちを、イエスの弟子たちとキリスト者の一致に加わるという、より大きな宝から遠ざけてしまうのです。

課題

どのようにすれば、わたしたちの各教会は、もっとも弱い立場にある隣人の必要によりよくこたえられるでしょうか。どのようにしたら、地域社会のあらゆる声を大切にすることができるでしょうか。

祈り

恵みあふれる、愛の神よ、

わたしたちの視野を広げ、すべてのキリスト者の兄弟姉妹と共有している使命を見だし、あなたのみ国の正義と愛のいつくしみを示すことができるようにしてください。

御子がわたしたちを迎え入れてくださったように、わたしたちも隣人を迎え入れることができるよう助けてください。

あなたがわたしたちに惜しみなく与えてくださる恵みをあかしするために、わたしたちがより寛大であるよう助けてください。

わたしたちの主、キリストによって。アーメン。

第4日 見よ、虐げられる人の涙を

コヘレト 4・1 - 5 わたしはあらためて、太陽のもとに行われる虐げのすべてを見た。見よ、虐げられる人の涙を。彼らを慰める者はない。見よ、虐げる者の手にある力を。彼らを慰める者はない。

マタイ 5・1 - 8 ……悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。

黙想

「見よ、虐げられる人の涙を」。このような惨状を、この作者はうんざりするほど繰り返し目撃してきたのだらうと想像できます。しかし、この作者が本当に虐げられた人の涙を見たのはおそらくこれが初めてで、彼らの苦痛と隷属を十分に受け止めたのでしょう。嘆くべきことがたくさんある一方で、あらためて見ると希望の種もあります。つまり、今度こそ、今回の目撃が変化をもたらし、違いを生み出すのかもしれないのです。

一人の若い女性が虐げられた人の涙を見ました。彼女が携帯電話で撮影した2020年5月のジョージ・フロイド殺害の映像は世界中で見られ、聖なる怒りを解き放ちました。アフリカ系アメリカ人が何世紀もの間に経験してきたこと、つまり特権をもつ目を閉じた傍観者の中で、抑圧的な諸制度によって不当に隷属させられていることを人々が目撃し、ついにはそれを認識したのです。この痛ましい現実を認識したことで、正義のための祈りと抗議行動というかたちで、世界中に共感があふれ、広がっているのです。

ただ見るだけだったのが、見て理解するようになるという進歩は、この地上の現実の中で行動するわたしたちに励ましを与えてくれます。つまり神は、わたしたちの目からうろこを取り除き、新しい、解放的な方法で物事を目撃できるようにしてくださるのです。そうしたうろこが落ちるとき、聖霊は気づきを与え、また新たな自由な方法で対応するための確信を与えるのです。教会や地

域社会が行った一つの対応は、殺害の場であるジョージ・フロイド広場に祈りの天幕を設置することでした。このように、これら諸教会や地域社会は、悲しみに暮れ、虐げられている人々に慰めを与えるため、一致団結したのです。

キリスト者の一致

マタイ福音書の真福八端は、イエスが群衆をご覧になるところから始まります。その群衆の中に、平和を実現する人、心の貧しい人、心の清い人、悲しむ人、義に飢え渴く人を見たに違いありません。真福八端の中で、イエスは人々の苦難を挙げるだけでなく、彼らがどうなるのか、すなわち神の子、天の国を受け継ぐ人になることを告げています。キリスト者としてわたしたちは、キリストにおける兄弟姉妹の聖なる苦悩に目を向けるよう呼ばれているのです。

課題

皆さんは、身の回りで抑圧を訴えるキリスト者の団体と、どのようにかかわってきましたか。皆さんの地域の教会は、どうすれば抑圧に苦しむ人々と、よりよい連帯を示すことができるでしょうか。

祈り

正義と恵みの神よ、わたしたちの目からうろこを取り払い、わたしたちの周りにある抑圧の状況を真に見ることができるようにしてください。

群衆を見て、彼らをあわれまれたイエスの名において祈ります。アーメン。

第5日 主のための歌を、異教の地で

詩編 137・1 - 4

わたしたちを捕囚にした民が、歌をうたえというから、わたしたちをあざける民が、楽しもうとして、「歌って聞かせよ、シオンの歌を」というから。

ルカ 23・27 - 31

エルサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子どもたちのために泣け。

黙想

詩編作者の嘆きは、バビロンにおけるユダの捕囚に端を発するものですが、捕囚の苦悩は時と文化を超えて共鳴するものです。おそらく詩編作者は、このことばを天に向かって叫んだのでしょう。おそらくそれぞれの節は、深い悲しみの嗚咽の間に声に出されたものなのでしょう。おそらくこの詩編は、不正義の中で生き、意味のある変化をもたらしることができない無力さを感じているからこそ現れる、無関心ゆえに肩をすくめる状態から生まれたのでしょう。このことばがどのように生まれたにせよ、この一節が表す心痛は、他国や自国においてよそ者として扱われる人々の心に響くものです。

この詩編の中で抑圧者が要求しているのは、微笑んで陽気に騒ぐこと、「幸せ」だった過去の歌を歌うことです。そうした要求は、歴史を通じて、社会から疎外された人々に向けられてきました。「ミンストレル・ショー」¹¹であれ、「芸者の踊り」¹²であれ、「カウボーイとインディアンのワイルド・ウェスト・ショー」¹³であれ、抑圧された人たちに幸福そうに演じるよう、抑圧する側が要求することはよくありました。被抑圧者は、生きるためにそれをしたのです。抑圧者の

¹¹ 「ミンストレル・ショー」は、アメリカの大衆娯楽の原形と考えられ、1830年代、おもに白人が用いた、ブラックフェイスという舞台化粧と、アフリカ系アメリカ人を蔑視した容姿や人物像を描いた演劇作品を組み合わせて始められたもの。しかし、1890年代になると、アフリカ系アメリカ人のアーティストたちは、「黒人ミンストレル・ショー」の中で「顔を黒く塗り」、歌い、踊り、セックスなどの挑発的な問題を論じ、「滑稽、原始的、過度に感覚的」といった黒人アイデンティティのステレオタイプに対抗する責任も感じ、人種差別的ステレオタイプと政治的コメントのバランスをとれた自己表現を舞台上で展開していった。

¹² 17世紀、日本では、さまざまなお茶屋の席で、踊りや音楽、会話などで楽しませる「アーティスト」として、芸者の役割が生まれた。

¹³ 1876年のリトル・ビッグホーンの戦いの後、バッファロー・ビル・コーディがワイルド・ウェスト・ショーを創設し、それは、カスタード将軍の最後の戦いを再現するなど、西部劇のすべてが見られる巡回公演だった。最大の呼び物は、アメリカ政府が依然としてインディアン居留地で戦闘を続けている中でショーに参加した、野蛮ではなく飼い慣らされたかに見受けられる、本物のアメリカ先住民族であった。

メッセージは、残酷なほど単純です。あなたたちを神聖にして独自のものとする、あなたたちの歌、儀式、文化的アイデンティティは、それがわたしたちに役立つ限りにおいてのみ許容される、というものです。

この詩編では、虐げられてきた世代が声を挙げています。自分自身の土地でよそ者であるのに、主のための歌を、どうして歌うことができるでしょうか。わたしたちは、わたしたちを捕らえた人のためではなく、神を賛美するために歌うのです。神がわたしたちを決して見捨てないで、わたしたちは孤独ではないから歌うのです。わたしたちはあかし人の群れに包まれているから歌うのです。先人と聖人たちはわたしたちを鼓舞してくれます。彼らは、希望の歌、自由の歌、解放の歌、人々が帰還する祖国の歌を歌うよう、わたしたちを励ましています。

キリスト者の一致

ルカによる福音書には、イエスが十字架を背負ってゴルゴタに向かうときも、人々、それも多くの女性がイエスに付き従ったことが記されています。このように従うことが、忠実な弟子の姿です。さらにイエスは、彼らが自らの十字架を誠実に背負うことに耐えていかなければならないという葛藤や苦悩を認識しています。

キリスト教一致運動のおかげで、今日のキリスト者はそれぞれの伝統を超えて、聖歌、祈りの内省や洞察を分かち合っています。自分たちとは異なる共同体のキリスト者の、しばしば苦難に耐えてきた、信仰と愛に満ちた弟子の姿から生まれたたまものとして、わたしたちは互いにそれらを受け取り合うのです。これらの共有されたたまものは、大切にすべき豊かさであり、わたしたちが共有しているキリスト教信仰のあかしです。

課題

わたしたちの間に生き、信仰と希望、捕囚からの解放の歌を歌った先人や聖人たちの物語を、どのように浮かび上がらせたらよいでしょうか。

祈り

虐げられる人の神よ、

キリストにおける姉妹、兄弟に

加え続けられている危害にわたしたちの目を開かせてください。

あなたの霊が、わたしたちに一致して歌う勇気を与え、

その苦しみが聞き届けられない人たちとともに、声を上げられますように。

イエスの名において祈ります。アーメン。

第6日 このもっとも小さい者の一人にしたのは、わたしに
してくれたことなのである

エゼキエル 34・15 - 20 わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。

マタイ 25・31 - 40 はっきりいっておく。わたしの兄弟であるこのもっとも小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。

黙想

マタイによる福音書によってわたしたちは、神への愛と他者への愛は切り離せないことを思い起こさせられます。飢えている人に食べ物を与え、のどが渴いた人に飲み物を与え、見知らぬ人を迎え入れ、裸の人に服を着せ、病者を世話し、囚人を見舞うとき、わたしたちは神を愛しているのです。わたしたちが「このもっとも小さい者の一人」を大切にし、仕えるとき、それはキリストを大切にし、仕えることになるのです。

2020年、2021年は、神の家族の中のはかりしれない苦しみが可視化された年でした。世界的な新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、経済、教育、環境上の格差と相まって、修復に数十年かかるであろう影響をわたしたちに及ぼしたのです。世界中の個人と集団の苦しみが明らかになり、キリスト者が愛と共感と連帯のうちの一つになりました。一方、ミネソタ州では、ジョージ・フロイドが警官のデレック・ショービンに殺害され、人種差別による不正義が続いていることが明らかになりました。「息ができない」というフロイドの叫びは、パンデミックと抑圧の両方の重圧に苦しむ多くの人の叫びでもあったのです。

神はわたしたちに、神の家族の一員である一人ひとりの聖性と尊厳を尊重するよう求めておられます。他人を思いやり、奉仕し、愛することは、その人が

だれであるかではなく、わたしたちがだれであるかを明らかにします。キリスト者としてわたしたちは、神から大切にされ、愛されているように、他者を愛し、大切にする責任において、一つにまとまらなければなりません。そうすることで、世界に奉仕する行動を通して、わたしたちが共有する信仰を実践していくのです。

キリスト者の一致

預言者エゼキエルは主なる神を、道に迷った者を集め、傷ついた者を抱きかかえることで群れを一つにまとめる、羊飼いと描いています。一致こそ、その民に対する御父の願いであり、聖霊のわざによって御父は、この一致を実現し、群れを一つにし続けておられます。祈りを通してわたしたちは、洗礼を受けたすべての人の一致を回復させる霊を受けるよう自らを開きます。

課題

皆さんや皆さんの教会には、「このもっとも小さい人」がどのように目に見えなくなっているのでしょうか。わたしたち諸教会は、「このもっとも小さい人」を大切に、仕えるために、どのようにともに働くことができるでしょうか。

祈り

愛の神よ、

あなたの限りない思いやりと愛に感謝します。

わたしたちがあがらないの歌を歌えるよう助けてください。

あなたの愛を受け止め

人類家族全体にあなたのいつくしみを広められるように

わたしたちの心を広く開いてください。

イエスの名において祈ります。アーメン。

第7日 「今あるものは、必ずしもそのままでもいい」

ヨブ5・11 - 16 だからこそ、弱い人にも希望がある。不正はその口を閉ざすであろう。

ルカ1・46 - 55 権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ(られます)。

黙想

満ち足りた生活をしていたヨブは、思いがけず家畜や召使いを失い、子どもの死という悲劇に見舞われることになりました。彼は、心も身体も精神も苦しみがありました。わたしたちは皆、心や身体、精神に苦しみを抱えています。神や他者から遠ざかってしまうかもしれません。希望を失うかもしれません。しかし、わたしたちはキリスト者として、苦しみの中にあっても神はわたしたちとともにおられるという信念で結ばれています。

2021年4月11日、ミネソタ州で、20歳の丸腰のアフリカ系アメリカ人男性ダンテ・ライトは、通常の交通取り締まりの間に、白人警察官によって射殺されました。この事件は、ジョージ・フロイド殺害についてのデレック・ショービンの裁判が行われている中で起きました。

わたしたちは、すべての人間の尊厳と自由を十分に認め、尊重し、保護することのできない、分断された社会に生きていることをあらためて思い知らされ、絶望的な気持ちにもなりかねません。カトリックを代表する社会倫理学者であり、人種的正義の研究者でもあるブライアン・マッシングール神父は次のように述べています。「社会生活は人間によってなされるものです。わたしたちが暮らす社会は、人間による選択と決断の結果です。これはつまり、人間は物事を変えうらということの意味します。人間が壊し、分断し、分離したものを、神の助けによって、いやし、統合し、回復することもできるのです。今あるものは、必ずしもそのままでもいい、そこに希望と挑戦があるのです」。

キリスト者は祈りにおいて、自分の心を神の心に合わせ、神が愛するものを愛し、神が愛するように愛するのです。

したがって、誠実な祈りは、分裂を超えてすべてのキリスト者の心を一致させ、

神が愛するものと人を、神と同じように愛し、この愛を自分たちの行動で表すようになるのです。

キリスト者の一致

「マリアの賛歌」は、神がなされるすべてを目にしたマリアの喜びの歌です。身分の低い人を引き上げて公正を回復し、飢えた人を養って不正義を正し、神のしもべであるイスラエルを思い起こします。主は決してその契約を忘れたり、その民を見捨てることはありません。他のキリスト教諸派に属する人々の信仰は、とくにその共同体が小規模な場合、見落とされたり、過小評価されたりしがちです。しかし、主は身分の低い人を引き上げ、一人ひとりの価値が認められるようにすることで、その民を完全なものとするのです。わたしたちは、主がご覧になるように見て、主が大切にされるように、キリスト者の兄弟姉妹の一人ひとりを大切にしよう呼ばれているのです。

課題

神が「不正義の口を閉じてくださる」という希望と信仰をもって、キリストにおいてともに歩んでいくにはどのようにすればよいでしょうか。

祈り

希望の神よ、

あなたが苦しみにあるわたしたちとともにいてくださることを思い起こせるよう、わたしたちを助けてください。

絶望が、わたしたちの心に頻繁に訪れる招かれざる客となる時、互いに希望を体現できるよう、わたしたちを助けてください。

わたしたちが、あらゆる抑圧と不正義を根絶するためにともに働くとき、あなたの愛の霊に根ざすたまものをお与えください。

あなたが愛するものと人を、あなたと同じように愛し、その愛を自らの行動で表す勇気を、わたしたちにお与えください。

わたしたちの主、キリストによって。アーメン。

第8日 交わりを回復させる正義

- 詩編 82・1 - 4 弱者や孤児のために裁きを行い、苦しむ人、乏しい人の正しさを認めよ。
- ルカ 18・1 - 8 神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わない……ことがあるうか。

黙想

詩編は、祈り、賛美、悲嘆、そして神からわたしたちへの教えの集成です。詩編 82 で神は、自由、安全、尊厳、健康、平等、愛といった、すべての人が有する基本的人権を守り抜く正義を呼びかけています。詩編はまた、格差と抑圧のシステムを覆し、不公正で、腐敗した、搾取的なあらゆるものを是正するよう求めています。これこそが、わたしたちキリスト者が推進するよう求められている正義なのです。神が被造物のために救いを実現されるのに合わせ、わたしたちはキリスト教共同体において、自分の意志と行動を神にゆだねます。キリスト者間のもも含め、分裂はつねにその根底に罪があり、あがないはつねに交わりを回復させます。

すべての人間は尊く、人は物よりも大切であり、さらに社会のあらゆる組織構造は一人ひとりの人間のいのちと尊厳を脅かすか高めるかという尺度で判断されるという真理から行動するために、神はわたしたちにキリスト教信仰を体現するよう呼びかけておられるのです。あらゆる人は、社会に参加する権利と責任を有し、すべての人、とくに身分の低い人や貧しい人の共通善と幸福をもに追求するのです。

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師の霊的助言者であったハワード・サーマン牧師は、『イエスと継承されざる者』の中で、次のように述べています。「すべてのいのちの一つであり、わたしたちは皆一つに結ばれているという真理をのべ伝えなければなりません。したがってわたしたちは、もっとも小さく

された人が逃げ場と生気の回復を得られるような社会のために働くことが求められているのです。自分のいのちを社会変革の祭壇に差し出して、皆さんがどこにいたとしても、そこで神の国が目の前に現れるようにしなければなりません」。

キリスト者の一致

イエスがやもめと不正な裁判官のたとえを話したのは、「気を落とさずにたえず祈らなければならないこと」(ルカ 18・1) を人々に教えるためでした。イエスは不正義、罪、分裂に対して、決定的な勝利を取られました。キリスト者としてのわたしたちの務めは、第一に祈りを通して自分の心の中に、第二に行動を通してわたしたちの生活の中に、この勝利を受け取ることです。どうかわたしたちが落胆することなく、神からの一致のたまものを祈り求め続け、生活の中でこの一致を示すことができますように。

課題

神の民としてわたしたちの諸教会は、神の家族全員を愛し、仕えるため、行動において一致できるような正義に、どのようにかかわることが求められているでしょうか。

祈り

すべてのものの創造主であり、あがない主である神よ、
あなたの愛する霊に根ざすために、内面に目を向けることを教えてください。
そうすることで、わたしたちは知恵と勇気をもって出向いて行き、
つねに愛と正義の道を選ぶことができます。

これを、あなたの御子イエス・キリストの名において、聖霊との交わりの中に祈ります。アーメン。

ミネソタ教会協議会¹⁴

「ミネソタ教会協議会（MCC）」は、各教派が加盟する団体です。ミネソタ州に教会をもつ27教派の会員は、「ヒストリック・ブラック」「主流派プロテスタント」「ペンテコステ派」「ピース・チャーチ」「ギリシャ正教会」の各派、そして「ダコタ（アメリカ先住民族）長老教会」から構成されています。現在、難民の再定住と彼らへの奉仕、諸宗教間交流、社会正義と人種的正義をおもなプログラムとしています。

1947年、ミネソタ州のいくつかのエキュメニカル組織が合併して、ミネソタ教会協議会が設立されました。プロテスタント教会の多くを代表するものでしたが、ルター派が参加するまでには数年を要しました。ギリシャ正教会がこの協議会に参加したことで、エキュメニカルな広がりはさらに拡大しました。ローマ・カトリック教会はミネソタ教会協議会に加盟していませんが、MCCはセントポール＝ミネアポリス教区をはじめ、ミネソタ州内の他の教区と密接な関係を維持しています。また、MCCは革新的福音派との関係も意識的に作り上げてきました。当教会協議会は、その歴史を通じて、イスラーム、ユダヤ教、ユニテリアン、仏教、ヒンズー教など、他の信仰共同体とも強いきずなを築いてきました。

MCCは設立当初、白人プロテスタント教会を代表する存在であり、加盟する教派もすべて白人主導で、白人優位の構成でした。当初50年間を通じて、MCCの活動とパートナーシップの中で、人種差別問題と、「黒人・先住民族・有色人種」（BIPOC）共同体とのかかわりの問題が発生しました。「白人優越主義」、公民権、人種間関係などが取り組むべき課題として挙げられていました。アメリカ先住民族のキリスト教共同体とプログラムを組むことも積極的に行いました。1957年にはマーティン・ルーサー・キング・ジュニア博士を招いてイベントを開催し、1968年にはアトランタでのキング牧師の葬儀にMCC専務理事が参列しました。

1990年代半ば、セントポール地域教会協議会とミネアポリス広域圏教会協

¹⁴ 本文書は、「2023年キリスト教一致祈祷週間」の草案を作成したミネソタ教会協議会の権限と責任によってのみ複製される。

議会との連携により、「ミネソタ教会人種差別撤廃イニシアチブ (MCARI)」という人種差別撤廃の取り組みが開始されました。この人種差別撤廃のための研修と評価活動は、15年以上にわたって、教会、そして後には教育機関や非営利団体に提供されてきました。

MCCはその歴史の中で、由緒ある黒人教派やさまざまなアフリカ系アメリカ人の教会と交流してきました。ミネソタ州に教会を有する由緒ある四つの黒人教派が加盟を固めたのは21世紀に入ってからのことでした。2015年までに、「アフリカン・メソジスト監督教会」「キリストにおける神の教会」「全米バプテテスト連盟」「世界ペンテコステ・アッセンブリーズ」がすべてMCCに加盟しました。2020年には、「ダコタ（アメリカ先住民族）長老教会」と黒人主導の多民族教派の「コミュニオン・オブ・ホーリー・クリスチャン教会」もMCCに加盟し、27の加盟教派の多様性はさらに広がりました。

由緒ある黒人教派を会員に迎えても、当協議会の指導層や組織は圧倒的に白人に偏ったままでした。MCCの理事会は、加盟各教派の法人代表者と数人の教派代表以外の会員で構成されていました。このことが、白人優位を確かなものとしていました。このことは、社会における人種差別に関する正義の活動により本格的に取り組む当協議会の指導者たちの間で、懸念事項となっていました。人種的正義の活動に誠実であるには、統治機構にも人種的公正に対する同様の責任を反映する必要があると判断したのです。

2018年、MCCはあえて、黒人教派の法人代表者が当面の間、理事長と副理事長を務める体制に移行しました。このことにより、MCCの統治において黒人指導者の影響力と意思決定が中心に据えられました。続いて、MCCの10人の執行委員の過半数がBIPOCとなることが決定されたのです。

2019年、MCCは20人の幹部からなる「ビジョン・プログラム委員会」を結成し、当協議会の将来の活動の構想を練っています。このグループは、アメリカ先住民族、アフリカ系アメリカ人、ラテン系アメリカ人、アジア系アメリカ人、白人の割合が等しくなっています。40歳以下の方がグループの大多数を占めています。女性が過半数います。このビジョン策定グループは、米国諸教派の黒人白人という人種的二元論を超えて、多民族からなるMCCの未来を提

示することを使命としました。

2020年、MCC理事会は、その過半数がBIPOCであることを保証するために、十分な数の教派代表以外の会員を加える規約改正を承認しました。2021年にMCCは、史上初めてBIPOCが過半数、女性が過半数を占める理事会を設置しました。

ミネソタ教会協議会の統治機構が変わったことで、プログラム制作、新スタッフの選任、同様な課題に取り組む諸団体とのネットワーク構築において、人種的正義により焦点が当てられるようになりました。2020年5月25日にミネアポリスで起きた、警察によるジョージ・フロイド殺害事件をきっかけに、MCCは人種的正義にかかわる活動を増やすこととなりました。ネットワークやパートナーシップを通じ、MCCは抗議行動や不安定な状況への対応に取り組みました。黒人教派の指導者たちは、1000人を超える聖職者の抗議と祈りの行進を先導したのです。

フロイドの死から数週間後、MCCの法人代表者たちは、ミネソタの人種差別の根底にある状況に対処するには何が必要なのかを熟慮し始めました。その目的は、ミネソタ州が全米でもっとも高い人種間格差を抱える原因となっている諸制度を変革することでした。2020年9月、ミネソタ教会協議会の理事会は、「真実の証言」「教育」「修復」に焦点を当てた「人種差別に関する正義のための3行動綱領」を承認しました。変革のためのこの綱領は、人種差別について真実を語るプロセスを開始し、人種差別によってもたらされた損失を補償するために投資することによって、ミネソタ州におけるより大きな人種的公正を追求するという、ジョージ・フロイド事件以降のMCCの役割を定めたものです。

この真実と修復のプロセスは、ミネソタのアメリカ先住民族やアフリカ系アメリカ人の共同体に及ぼされた歴史的損害に対処するものです。ラテンアメリカ、アフリカ、アジア、アラブなどの国々からの移住者や難民は、不正を生む既存の諸構造の影響にさらされます。黒人や先住民族の共同体に損害を与える諸構造に焦点を当てることで、このような影響を受ける他の人々にも利益もたらされるのです。

真実と修復の活動は、州全体を対象としています。ミネソタ教会協議会に加盟している教派は、その地理的な広がりから、合わせて州内のほぼすべての地域に教会を有しています。MCC は、加盟 27 教派の代表者を通じて、農村地帯、小都市、中規模都市、近郊都市、そしてミネアポリスとセントポールにおいて、プログラムを開始することができます。

MCC の「3 行動綱領」は、次のことを推進します。

1. 「真実の証言」

MCC は、真実を語ることを求め、悲嘆を受け入れ、修復を訴え、諸制度に変化をもたらす責任をもたせる、強力な道徳的声を提供します。真実を語るということは、信仰共同体が人種的不公正に加担していることを明らかにすることも含みます。この「真実と修復」イニシアティブは、白人優越主義を強化する支配的物語に挑戦し、変革を可能にするために不平等を白日のもとにさす草の根の物語を明示するために、真実の証言を用います。真実の証言は、州内、各地域、都市や町といったさまざまな状況の中で始められるでしょう。そうした物語は、先住民族の共同体や黒人共同体のリーダーたちとの関係性を深めていくことを通して形づくられていきます。課題として、治安維持、土地、健康、教育、貧富、雇用、住宅などが挙げられます。

2. 「教育」

各教派や信徒らは、人種差別撤廃の研修、文化的能力、DEI（訳注：Diversity, Equity, Inclusion = 多様性尊重、機会均等、包括的協働）に基づく指導者育成などを通じて、その能力を高めています。

3. 先住民族や黒人共同体における「修復」

目標は、人種差別によってもたらされた被害を修復することです。ミネソタ州全域の政府、企業、学界、その他の組織において、修復と公正のプロセスが MCC によって進められます。MCC は、歴史的な不正義に取り組み、黒人や先住民族の共同体に影響を与える現在の諸構造に公正さを注ぎ込めるような修復

を要求し、法制化し、実現するため、連帯的かつ道徳的な力を築いていきます。修復の取り組みを成功させるには、先住民族や黒人の指導者たちとの強力な連携が必要です。どのように修復が提供されるかさえも、黒人や先住民族の共同体によって決定されなければなりません。これは、真実を語るプロセスとの協調になるのです。

2021年、人種的正義のためのMCC共同ディレクターがミネソタ州の黒人および先住民族共同体の中から採用され、真実を語るプロセスが開始されました。人種差別による被害の歴史と現状についての真実の証言に基づいた、地域主導の修復プロセスを始めることができるよう、対話が始まり、連携が築かれました。真実の証言、教育、修復のプロセスは、少なくとも10年は続くと思われています。

◇キリスト教一致祈禱週間のテーマ一覧（1968-2023年）◇

1968年、世界教会協議会（WCC）信仰職制委員会と、教皇庁キリスト教一致推進評議会が共同発行した冊子が初めて使用されました。

- 1968 神の栄光をほめたたえるに至るために（エフェソ 1・14）
- 1969 自由への召し（ガラテヤ 5・13）
- 1970 わたしたちは神の同労者である（一コリント 3・9）
- 1971 聖霊の交わり（二コリント 13・13）
- 1972 わたしは新しいおきてをあなたがたに与える（ヨハネ 13・34）
- 1973 主よ、祈ることを教えてください（ルカ 11・1）
- 1974 すべての舌が「イエス・キリストは主である」と告白するように（フィリピ 2・1-13）
- 1975 すべてはキリストのもとに（エフェソ 1・3-10）
- 1976 わたしたちはまことの姿になるよう召されている（一ヨハネ 3・2）
- 1977 ともに希望をもって屈せず（ローマ 5・1-5）
- 1978 もはや他人ではない（エフェソ 2・13-22）
- 1979 み栄えのため互いに仕えよう（一ペトロ 4・7-11）
- 1980 み国が来ますように（マタイ 6・10）
- 1981 一つの霊 多くの賜物 一つの体（一コリント 12・3b-13）
- 1982 主こそわがやどり（詩編 84）
- 1983 イエス・キリスト—この世の生命（一ヨハネ 1・1-4）
- 1984 主の十字架は一致への道（一コリント 2・2, コロサイ 1・20）
- 1985 キリストとともに死から生命へ（エフェソ 2・4-7）
- 1986 我が証人となれ（使徒言行録 1・6-8）
- 1987 キリストにあつてともに新しく（二コリント 5・17-6・4a）
- 1988 愛は恐れをとりのぞく（一ヨハネ 4・7-21）
- 1989 キリストに結ばれて一つのからだに（ローマ 12・1-21）
- 1990 キリストの祈りのうちに（ヨハネ 17）
- 1991 すべての国よ、主を賛美せよ（詩編 117, ローマ 15・5-13）
- 1992 わたしはあなたがたとともにいる。だから行きなさい。（マタイ 28・16-20）

- 1993 聖霊の実はキリスト者の一致を生む（ガラテヤ 5・22-23）
- 1994 神の家族・心も思いも一つにして（使徒言行録 4・23-37）
- 1995 コイノニア・神にある交わり、お互いの間の交わり（ヨハネ 15・1-17）
- 1996 見よ、わたしは戸口に立って、たたいている（黙示録 3・14-22）
- 1997 神と和解させていただきなさい（二コリント 5・16-21）
- 1998 “霊”は弱いわたしたちを助けてくださる（ローマ 8・14-27）
- 1999 神が人と共に住み、その神となり、人は神の民となる（黙示録 21・3）
- 2000 神はほめたたえられますように。神はわたしたちをキリストにおいて祝福で満たしてくださった（エフェソ 1・3-14）
- 2001 わたしは道、真理、いのち（ヨハネ 14・6）
- 2002 神よ、命の泉はあなたにある（詩編 36・6-10）
- 2003 わたしたちは、このような宝を土の器に納めています（二コリント 4・7）
- 2004 わたしの平和を与える（ヨハネ 14・27）
- 2005 教会の土台であるキリスト（一コリント 3・1-23）
- 2006 二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる（マタイ 18・18-20）
- 2007 耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてくださる（マルコ 7・31-37）
- 2008 絶えず祈りなさい（一テサロニケ 5・(12a) 13b-18）
- 2009 それらはあなたの手の中で一つとなる（エゼキエル 37・15-28）
- 2010 あなたがたはこれらのことの証人となる（ルカ 24・48）
- 2011 使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに一つ（使徒言行録 20・42 参照）
- 2012 わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます（一コリント 15・51-58 参照）
- 2013 神が何をわたしたちに求めておられるか（ミカ 6・6-8 参照）
- 2014 キリストは幾つにも分けられてしまったのですか（一コリント 1・1-17）
- 2015 イエスは「水を飲ませてください」と言われた（ヨハネ 4・7）
- 2016 主の力あるわざを、広く伝えるために招かれて（一ペトロ 2・9 参照）

- 2017 キリストの愛がわたしたちを駆り立てています（二コリント 5・14-20 参照）
- 2018 主よ、あなたの右の手は力によって輝く（出エジプト 15・6）
- 2019 ただ正しいことのみを追求しなさい（申命記 16・20）
- 2020 人々は大変親切にしてくれた（使徒言行録 28・2 参照）
- 2021 わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば、あなたがたは豊かに実を結ぶ。（ヨハネ 15・5-9 参照）
- 2022 わたしたちは東方でそのかたの星を見たので、拝みに来たのです。（マタイ 2・2）
- 2023 善を行い、正義を追い求めなさい（イザヤ 1・17 参照）

◇キリスト教一致祈禱週間に関する歴史上の重要な年◇

1740年頃 スコットランド	スコットランドで起こり、北アメリカ大陸まで及んでいった聖霊による働きに目覚めた人々がいた。それは諸教会を包む信仰覚醒運動の祈りであった。(メソジスト運動)
1820年 ジェームス・H・ スチュアート	ジェームス・H・スチュアート神父の著作が出版された。 “Hints for the General Union of Christians for the Out-pouring of the Spirit”
1840年 イグナティウス・ スペンサー	ローマ・カトリックへ改宗した、イグナティウス・スペンサー神父は、「一致のための合同の祈り (Union of Prayer for Unity)」を提唱した。
1867年 ランベス会議	聖公会の主教たちによる第1回ランベス会議が行われ、一致祈禱についての転換の前兆となった。(1920年のランベス会議決議では、「教会の再一致の訴え」を協議した。)
1894年 教皇レオ13世	ローマ教皇レオ13世は、聖霊降臨に関連して、一致のために八日間の祈りの実施を奨励した。
1908年 ポール・ワトソン	「教会一致のための八日間の祈り」が、ポール・ワトソン神父によって初めて行われた。
1926年 信仰と職制運動	信仰と職制運動は「キリスト教一致のための八日間の祈りの提案」を広める活動を開始した。
1935年 ポール・ クトゥール	フランスのポール・クトゥールは「主の意志によってキリスト教が一致しようとする」祈りを基に包括した「普遍的なキリスト教一致祈禱週間」を提唱した。
1958年 “Unité Chrétienne”	“Unité Chrétienne” (フランス、リヨン市) と WCC (世界教会協議会) の信仰職制委員会は、祈禱週間のために資料を協同で準備し始めることとなった。
1964年 エルサレム	教皇パウロ6世と総主教アテナゴラス1世が、共にイエスの祈り「すべての人を一つにしてください」(ヨハネ17章)を唱える。
1964年 第二バチカン 公会議	第二バチカン公会議の「エキュメニズム教令」ではエキュメニカルな運動の精神とキリスト教一致祈禱週間の遵守することを強調した。
1966年 信仰職制委員会、 一致推進秘書局	WCC (世界教会協議会) の信仰職制委員会とキリスト教一致推進秘書局 (現教皇庁キリスト教一致推進省) は、祈禱週間テキストについて公式な協同の準備を開始した。
1968年 第1回教会一致祈 禱週間	第1回「キリスト教一致祈禱週間」は、「信仰職制」のテキストに基づいて行われ、それはキリスト教一致推進秘書局と協同で準備された。

1975 年 地方教会による一致 祈祷週間冊子	地方教会のエキュメニカル・グループが作成した草案に基づくキリスト教一致祈祷週間の冊子を初めて使用。この年の草案を作成したのはオーストラリアのグループ。
1988 年 マレーシア・キリ スト教連盟	マレーシア国内の主要キリスト教教派の連合のマレーシア・キリスト教連盟が大会開会礼拝でキリスト教一致祈祷週間冊子を使用。
1994 年 YMCAとYWCA	YMCAとYWCAが協力して1996年キリスト教一致祈祷週間テキストを作成。
2004 年 キリスト教一致祈 祷週間冊子	以後、キリスト教一致祈祷週間の冊子を、信仰職制委員会(WCC)と教皇庁キリスト教一致推進評議会(カトリック)が同一の体裁で協同制作・出版することが合意された。
2008 年 100 周年	キリスト教一致祈祷週間開始 100 周年(教会一致のための八日間の祈りが 1908 年に初めて行われた)。
2017 年 宗教改革 500 周年	宗教改革 500 周年にあたり、ドイツの教会が 2017 年キリスト教一致祈祷週間冊子の草案を作成。

<お願い>

この種の出版や今後の共働を推進するために、全国のキリスト者の皆様のご理解とご支援を心から期待しております。合同祈祷会の献金の一部、あるいは有志の献金を多少なりともお送りくだされば、事務局の活動の大きな励ましと支えになります。ご協力をお願い申し上げます。

日本キリスト教協議会

169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-24

TEL 03-6302-1919 FAX 03-6302-1920

郵便振替 00180-4-75788 『日本キリスト教協議会』

カトリック中央協議会

135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館内

TEL 03-5632-4445 FAX 03-5632-4465

郵便振替 00130-6-36546 『宗教法人カトリック中央協議会一般会計口』
(通信欄に「キリスト教一致祈祷週間」と明記してください)

2022年キリスト教一致祈祷週間 献金リスト (敬称略)

〈カトリック中央協議会扱い〉

(2021年9月1日～2022年8月31日)

愛徳カルメル会本部修道院
青森市キリスト教一致祈祷会
アトムメントのフランシスコ会
アトムメントのフランシスコ女子修道会
大阪聖ヨゼフ宣教師修道女会
幼きイエス会 管区本部
幼き聖マリア修道会 富山修道院
オタワ愛徳修道女会
お告げのフランシスコ姉妹会
お告げのマリア修道会
カトリック (横浜) 金沢教会
カトリック春日部教会
カトリック桜町教会
カトリック西千葉教会
カトリック弘前教会
カトリック福山教会
カトリック本所教会
カトリック松が峰教会
カトリック門司教会
カトリック雪ノ下教会
カトリック横浜司教区
カノッサ修道女会
熊本朝教会
軽費老人ホーム ときわ荘
けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会
出丸亀地区キリスト教一致祈祷委員会
サレジオン・シスターズ
大分修道院
サレジオン・シスターズ
守護の天使修道院
サレジオン・シスターズ
聖ヨゼフ修道院
サレジオン・シスターズ
世田谷修道院
サレジオン・シスターズ
浜松修道院
サレジオン・シスターズ
扶助者聖マリア修道院
サレジオン・シスターズ
マンママルゲリータ修道院
サレジオン・シスターズ
目黒修道院
三条聖母マリア教会
師イエズス修道女会
志太榛原地区キリスト教一致祈祷会
シトー会 伊万里の聖母修道院
シトー会 那須の聖母修道院
シャルトル聖パウロ修道女会 片瀬修道院
シャルトル聖パウロ修道女会 九段修道院
殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会
純心聖母会 (本部)

純心聖母会 原爆第二修道院
純心聖母会 川内修道院
純心聖母会 八王子修道院
シオフィアユの幼きイエズス修道会
大阪信愛修道院
シオフィアユの幼きイエズス修道会
本部修道院
聖クララ会 (新潟)
聖心会
聖ドミニコ宣教師修道女会 東京修道院
聖パウロ修道会
聖母奉獻修道会
聖靈奉侍布教修道女会
世田谷地区キリスト教一致祈祷会
天使の聖母宣教師修道女会
長崎キリスト教一致礼拝
新潟キリスト教連合会
スヴェール愛徳修道会 地区本部
萩カトリック教会
広島教区カトリック岡山島取地区センター
福音史家聖ヨハネ布教修道会
福岡一致祈祷会
藤沢市内キリスト教連絡会
ベタニア修道女会
ベリス・メルセス宣教師修道女会
マリアの宣教師フランシスコ修道会
マリアの宣教師フランシスコ修道会
熊本修道院
マリアの宣教師フランシスコ修道会
札幌修道院
マリアの宣教師フランシスコ修道会
種子島修道院
聖心の布教師妹会 本部
三原キリスト教一致祈祷会
ラ・サール中学校 ロザリオ会
レデンプトール修道会
レデンプトール修道会 長崎修道院
レデンプトール宣教師修道女会
井上庸子
近藤ひろ子
白柳隆明
鈴木崇代
竹内久枝
寺濱康子
永井和夫
野中秀二
廣陽二
三木康子
(匿名)

〈日本キリスト教協議会扱い〉

(2021年9月1日～2022年8月31日)

青森市キリスト教一致祈祷会
伊豆地区一致祈祷会
三条福音キリスト教会
世田谷地区キリスト教一致祈祷会
長崎キリスト教一致礼拝
日本基督教団遠野教会・カトリック遠野教会
合同一致祈祷会
日本バプテスト連盟 高松常磐町キリスト教会
福岡一致祈祷会

「2023年キリスト教一致祈祷週間」

日本キリスト教協議会・カトリック中央協議会 共同発行